超概算廃プラガス化・バランス(余剰分:軽重油分離販売)試算例①

(ガス化発電設備: GWEx2基構成+2mWガス・エンジン発電機並列設置)

項目	 毎時		毎年	
ス 廃プラ処理量(Kg/h, ト _ン /年)	2,000			原料処理量(1500~2000Kg/h)
熱量(Kcal/kg)	6.500		10,000	推定值
魔プラ投入熱量(KW-th/h)	15,116			
年間稼働時間(h)	8,000			
	0,000			
需要側				
電力需要合計(発電機端)(KWe/h、MWe/y)	2,700		21,600	
:売電(KWe/h,MWe/y)	2.000		16,000	
:自己消費(KWe/h,MWe/y)	200		1,600	ガス化炉用電力
:既存工場消費(KWe/h,MWe/y)	500		4,000	商用電力購入代替
3,11,32 (1.1.1.2) (1,1.1.2)			,	
合成ガスガスバランス(Nm,3/h)				
ガス化効率(%)	90%			推定値
合成ガス熱量 (Kcal/Nm3@LHV)	3,529			
合成ガス量 (Nm3/h,KNm3/y)	3,315		26,521	
合成ガス(油)熱量合計(KW-th/h)	13,605	100%		
ガス化炉自己消費(KH-th/h)	4,081	30.0%		
消費量(%)	30.0%			
ガス消費量(Nm3/h)	995			
ガスエンジン発電機				
発電効率(%)	36%			
発電量(KWhe/h,発電@全ガス量,KWe/y)	2,700	4,898	21,600	*1:発電可能量(KW-Max)
最大単独発電可能量(KWe/h)	3,428			
合成ガス必要熱量(KW-th)	7,500	55.1%		
既存焼却炉助燃燃料代替(KW-th)	531	3.9%		
助燃燃料(L/h,KL/y)	50.0		400	*2:同一熱量合成ガス供給も可
重油熱量(Kcal/Kg)	10,500			
重油比重(一)	0.870			
熱量換算(KW-th)	531			
A 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
余剰熱量(KW-th/h)	1,492	11.0%		
重油販売可能熱量(KW-th)	1,492	11.0%		
重油販売量(L/h,KL/h)(案1)	140		1,124	余剰分重油販売(及び水素残)
水素販売量(Kg/h、ト _ン /y)(案2)	0			: 水素販売
水素濃度(vol%)	45.0%			水素は別とPSA等設備必要
水素含有量(Nm3/h)	1,492			
: 回収率(%)	60%			仮定値(60%回収)
水素回収全熱量(KW-th/h)	0	0.0%	0	

Note:

- ・(案1)必要発電量を越える分は、ガス化ではなく、一部油化し燃料油として販売(或いは燃料利用) (案2)ガス化して、水素分離(PSA)を行い利用(外部販売、或いは自社廃棄物トラックの水素自動車化) 両ケースを一部ずつ実現することも可能と思われる(採算計算は除外)
- ・発電可能量(*1)は、ほど理想的なケースです。同じ廃プラでもその種類、この他木質チップ等の混入等により、発電量は大幅に変わります(廃プラが含まれる原料のガス化でも、2.5~5.0MWe程度の変化が想定されます。熱分解油油、或いは水素の生産量も全て同様です
- ・残焼却炉・助燃料(*2,重油、或いは合成ガス)を、購入重油の代替燃料として使う
- ・上記のバランスであれば、この設備を使い廃プラ(16,000 / /年)をガス化すれば、理想的には、 売電2,000KWeに加えて、他設備の購入電力(毎時500KWe)をゼロに、従来利用の焼却炉助燃重油

(400KL/年)を伴に削減できて、かつ重油燃料を年1,124KL販売できる計算です加えて、年16,000~の廃棄物処理費が引き続き得られます

- ・尚、ガス化炉で、合成ガスと副生油(軽重油)を、バランス良く回収する技術的な検討は必要です
 合成ガスと副生(熱分解)油の需給バランスによっては、全ての需要を満たせない可能性もあり得ます
- ・下記設備価格は、概算の主に本体装置価格であり、土地整備、土建、建屋・工事費等を含みません

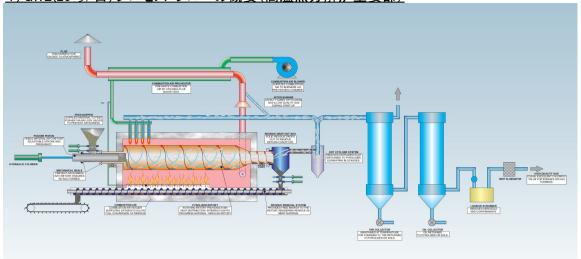
超概算ガス化発電・重油販売採算性

ガス化装置設備投資額(円)	2,200,000,000		前提(15年定額償却、残価10%)
2000年1000年1000年1000年100日100日100日100日100日1	2,200,000,000		水素回収設備費は含みません
収入・売上(円/年)			
廃プラ処理受託費(@3万円/トン)	480,000,000	56.2%	単純焼却の売上(この項目のみ)
売電売上(@13円/KWh)	208,000,000	24.4%	ガス化による売上増(売電)
他設備電気代削減(@20円/KWh)	80,000,000	9.4%	;
助燃重油削減(@75円/L)	30,000,000	3.5%	;
副生重油販売(@50円/L)	56,190,476	6.6%	;(副生重油販売)
水素販売(@1000円/Kg)		0.0%	
合 計	854,190,476	100.0%	
支出・経費(円/年)			
人件費(2x4+3=11人@500万円)	-55,000,000		
設備償却(@15年)	-132,000,000		
保守費(@3%)	-90,000,000		
廃プラ回収・前処理費(@5000円/ト。)	-80,000,000		
設備管理費(@売上の5%)	-42,709,524		
合 計	-399,709,524		
素利益(収入—支出)(円/年)	454,480,952		
キャッシュ・フロー(円/年)	586,480,952		
投資回収(年)	3.75		

尚、お問い合わせは下記よりお願いします

合同会社バイオ燃料: バイオマス・ガス化ソリュション提供のお問い合わせフォーム (biofuels.co.jp)

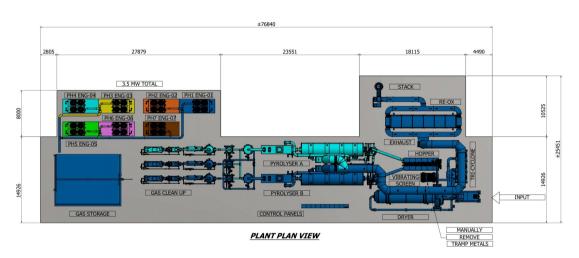
1) GWE(25 /)/日) プロセス・フローの概要(高温熱分解炉主要部)

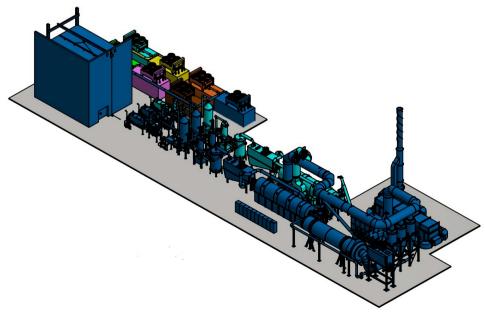


2)装置配置例(熱分解炉2基並列構成(505/円)、単独1基構成も可)

下記は単なる機器類の配置例です

設置場所の状況(土地形状、面積)により、機器類の配置変更、或いは立体化も可能です。





超概算廃プラガス化・バランス(余剰分:水素分離販売)試算例②

(ガス化発電設備: GWEx2基構成+2mWガス・エンジン発電機並列設置)

項目	毎時		毎年	
ス 廃プラ処理量(Kg/h, ト _ン /年)	2,000			原料処理量(1500~2000Kg/h)
熱量(Kcal/kg)	6,500		10,000	推定值
魔プラ投入熱量(KW-th/h)	15,116			
年間稼働時間(h)	8,000			
十四分別到1日(17)	0,000			
需要側				
電力需要合計(発電機端)(KWe/h、MWe/y)	3,050		24,400	
: 売電(KWe/h,MWe/y)	2,000		16,000	
:自己消費(KWe/h,MWe/y)	550		4,400	ガス化炉+水素製造用電力
: 既存工場消費(KWe/h,MWe/y)	500		4,000	商用電力購入代替
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
合成ガスガスバランス(Nm,3/h)				
ガス化効率(%)	90%			推定値
合成ガス熱量(Kcal/Nm3@LHV)	3,529			
合成ガス量(Nm3/h,KNm3/y)	3,315		26,521	
合成ガス(油)ガス熱量合計(KW-th/h)	13,605	100%		
ガス化炉自己消費(KH-th/h)	4,081	30.0%		
消費量(%)	30.0%			
ガス消費量(Nm3/h)	995			
ガスエンジン発電機				
発電効率(%)	36%			
発電量(KWhe/h,発電@全ガス量,KWe/y)	3,050	4,898	24,400	*1:発電可能量(KW-Max)
最大単独発電可能量(KWe/h)	3,428			
合成ガス必要熱量(KW-th)	8,472	62.3%		
既存焼却炉助燃燃料代替(KW-th)	531	3.9%		
助燃燃料(L/h,KL/y)	50.0		400	*2:同一熱量合成ガス供給も可
重油熱量(Kcal/Kg)	10,500			
重油比重(一)	0.870			
熱量換算(KW-th)	531			
스 조네라 된 // au - // ` '				
余剰熱量(KW-th/h)	520	3.8%		
重油販売可能熱量(KW-th)	5	0.0%	.	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
重油販売量(L/h,KL/h)(案1)	0		4	余剰分重油販売(及び水素残)
水素販売量(Kg/h、 ^ト ン/y)(案2)	80		639	: 水素販売
水素濃度(Vol%)	45.0%			水素は別とPSA等設備必要
水素含有量(Nm3/h)	1,492			
: 回収率(%)	60%	0.00/	4.400	仮定値(60%回収)
水素回収全熱量(KW-th/h)	515	3.8%	4,122	

Note:

- ・(案1)必要発電量を越える分は、ガス化ではなく、一部油化し燃料油として販売(或いは燃料利用) (案2)ガス化して、水素分離(PSA)を行い利用(外部販売、或いは自社廃棄物トラックの水素自動車化) 両ケースを一部ずつ実現することも可能と思われる(採算計算は除外)
- ・発電可能量(*1)は、ほど理想的なケースです。同じ廃プラでもその種類、この他木質チップ等の混入等により、発電量は大幅に変わります(廃プラが含まれる原料のガス化でも、2.5~5.0MWe程度の変化が想定されます。熱分解油油、或いは水素の生産量も全て同様です
- ・残焼却炉・助燃料(*2,重油、或いは合成ガス)を、購入重油の代替燃料として使う
- ・上記のバランスであれば、この設備を使い廃プラ(16,000 / /年)をガス化すれば、理想的には、 売電2,000KWeに加えて、他設備の購入電力(毎時500KWe)をゼロに、従来利用の焼却炉助燃重油

(400KL/年)を伴に削減できて、かつ水素燃料を年639~、及び回収不可の水素換算熱量の軽重油4~の販売できる計算です。加えて、年16,000~の廃棄物処理費が引き続き得られます尚、別途水素製造に特化した最新廃プラ触媒蒸気改質法水素装置なら、毎時1~(日量24~)/年8,000~)の廃プラで、日量5~6~(年1,600~2,000~))もの水素製造が可能な見込です(主にHDPE/LDPE/PPの廃プラなら水素最大化が可能)。廃プラ使用量を出来る限り少なくし(原料外部購入等)、水素生産量の最大化なら、こちらが原料・水素製造効率ベストな選択となります・イメージ・アップ対策の水素製造を選択なら、多少はバイオマス(廃木、廃紙)を含める方がベター・尚、ガス化炉で、合成ガスと副生油(軽重油)を、バランス良く回収する技術的な検討は必要です合成ガスと副生(熱分解)油の需給バランスによっては、全ての需要を満たせない可能性もあり得ます・下記設備価格は、概算の主に本体装置価格であり、土地整備、土建、建屋・工事費等を含みません

超概算ガス化発電・水素販売採算性

	1		T
ガス化装置設備投資額(円)	2,200,000,000		前提(15年定額償却、残価10%)
: 水素分離設備費(円)	1,600,000,000		水素回収設備費(超概算)
<u>収入·売上(円/年)</u>			
廃プラ処理受託費(@3万円/トシ)	480,000,000	33.4%	単純焼却の売上(この項目のみ)
売電売上(@13円/KWh)	208,000,000	14.5%	ガス化による売上増(売電)
他設備電気代削減(@20円/KWh)	80,000,000	5.6%	;
助燃重油削減(@75円/L)	30,000,000	2.1%	;
副生重油販売(@50円/L)	175,255	0.0%	;
水素販売(@1000円/Kg)	639,336,023	44.5%	;(副生重油販売)
合 計	1,437,511,278	100.0%	
支出•経費(円/年)			
人件費(3x4+3=15人@500万円)	-75,000,000		
設備償却(@15年)	-228,000,000		
保守費(設備費@3%)	-114,000,000		
廃プラ回収・前処理費(@5000円/トン)	-80,000,000		
設備管理費(@売上の5%)	-71,875,564		
合 計	-568,875,564		
素利益(収入—支出)(円/年)	868,635,714		
キャッシュ・フロー(円/年)	1,096,635,714		
投資回収(年)	3.47		

尚、お問い合わせは下記よりお願いします

合同会社バイオ燃料: バイオマス・ガス化ソリュション提供のお問い合わせフォーム (biofuels.co.jp)

超概算廃プラガス化・バランス(余剰分:軽重油分離販売)試算例③

(ガス化発電設備: GWEx1基構成+2mWガス・エンジン発電機並列設置)

T-E -	⊭ n+	ı		
項 目 (1/2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2	<u>毎時</u>		毎年	
廃プラ処理量(Kg/h,トン/年)	1,000		8,000	原料処理量(750~1000Kg/h)
熱量(Kcal/kg)	6,500			推定値
廃プラ投入熱量(KW-th/h)	7,558			
年間稼働時間(h)	8,000			
需要側				
電力需要合計(発電機端)(KWe/h、MWe/y)	1,714		13,712	
:売電(KWe/h,MWe/y)	1.614		12,912	
:自己消費(KWe/h,MWe/y)	100		800	ガス化炉用電力
:既存工場消費(KWe/h,MWe/y)			0	商用電力購入代替
27817 — 27.1172 (1.1107 1.1111107 y)		1	1	
合成ガスガスバランス(Nm,3/h)		1		
ガス化効率(%)	90%			推定値
合成ガス熱量 (Kcal/Nm3@LHV)	3,529			
合成ガス量 (Nm3/h,KNm3/y)	1,658		13,260	
合成ガス(油)熱量合計(KW-th/h)	6,802	100%	10,200	
日次20人(四) 松重日日 (KW GI/ H)	0,002	100%		
ガス化炉自己消費(KH-th/h)	2,041	30.0%		
消費量(%)	30.0%			
ガス消費量(Nm3/h)	497			
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
ガスエンジン発電機				
発電効率(%)	36%			
発電量(KWhe/h,発電@全ガス量,KWe/y)	1.714	2,449	13.712	*1:発電可能量(KW-Max)
最大単独発電可能量(KWe/h)	1,714	_,	-, <u>-</u>	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
合成ガス必要熱量(KW-th)	4,761	70.0%		
日初八八名天灬王(四)	1,701	, 3.570		
重油熱量(Kcal/Kg)	10,500	+		
重油比重(一)	0.870			
主川儿主(/	0.070	+		
余剰熱量(KW-th/h)	1	0.0%		
重油販売可能熱量(KW-th)	1			
重油販売量(L/h,KL/h)(案1)	0		0	余剰分重油販売(及び水素残)
——————————————————————————————————————		1		
			I	

Note:

- ・(案1)必要発電量を越える分は、ガス化ではなく、一部油化し燃料油として販売(或いは燃料利用) (案2)ガス化して、水素分離(PSA)を行い利用(外部販売、或いは自社廃棄物トラックの水素自動車化) 両ケースを一部ずつ実現することも可能と思われる(採算計算は除外)
- ・発電可能量(*1)は、ほど理想的なケースです。同じ廃プラでもその種類、この他木質チップ等の混入等により、発電量は大幅に変わります(廃プラが含まれる原料のガス化でも、2.5~5.0MWe程度の変化が想定されます。熱分解油油、或いは水素の生産量も全て同様です
- ・残焼却炉・助燃料(*2,重油、或いは合成ガス)を、購入重油の代替燃料として使う
- ・上記のバランスであれば、この設備を使い廃プラ(8,000 $^{\circ}$ ン/年)をガス化すれば、理想的には、売電1,614KWeできる計算です。
- 加えて、年8,000~の廃棄物処理費が引き続き得られます
- ・尚、ガス化炉で、合成ガスと副生油(軽重油)を、バランス良く回収する技術的な検討は必要です 合成ガスと副生(熱分解)油の需給バランスによっては、全ての需要を満たせない可能性もあり得ます
- ・下記設備価格は、概算の主に本体装置価格であり、土地整備、土建、建屋・工事費等を含みません

超概算ガス化発電・重油販売採算性

ガス化装置設備投資額(円)	1,200,000,000		前提(15年定額償却、残価10%)
			水素回収設備費は含みません
収入·売上(円/年)			
廃プラ処理受託費(@3万円/トン)	240,000,000	58.8%	単純焼却の売上(この項目のみ)
売電売上(@13円/KWh)	167,856,000	41.2%	ガス化による売上増(主に売電)
副生重油販売(@50円/L)	19,461	0.0%	; (副生重油販売)
合 計	407,875,461	100.0%	
支出・経費(円/年)			
人件費(1x4+3=7人@500万円)	-35,000,000		
設備償却(@15年)	-72,000,000		
保守費(@3%)	-36,000,000		
廃プラ回収・前処理費(@5000円/トン)	-40,000,000		
設備管理費(@売上の5%)	-20,393,773		
合 計	-203,393,773		
素利益(収入—支出)(円/年)	204,481,688		
キャッシュ・フロー(円/年)	276,481,688		
投資回収(年)	4.34		

尚、お問い合わせは下記よりお願いします 合同会社バイオ燃料:バイオマス・ガス化ソリュション提供のお問い合わせフォーム (biofuels.co.jp)

超概算廃プラガス化・水素分離販売試算例4)

(ガス化発電設備: GWEx1基構成+1.5mWガス・エンジン発電機並列設置)

項目	毎時		毎年	
 	1,000			原料処理量(750~1000Kg/h)
熱量(Kcal/kg)	6,500		,	推定値
廃プラ投入熱量(KW-th/h)	7,558			
年間稼働時間(h)	8,000			
	ĺ			
需要側				
電力需要合計(発電機端)(KWe/h、MWe/y)	1,525		12,200	
: 売電(KWe/h,MWe/y)	1,200		9,600	
:自己消費(KWe/h,MWe/y)	325		2,600	ガス化炉+水素製造用電力
: 既存工場消費(KWe/h,MWe/y)			0	商用電力購入代替
合成ガスガスバランス(Nm,3/h)				
ガス化効率(%)	90%			推定値
合成ガス熱量(Kcal/Nm3@LHV)	3,529			
合成ガス量(Nm3/h,KNm3/y)	1,658		13,260	
合成ガス(油)ガス熱量合計(KW-th/h)	6,802	100%		
ガス化炉自己消費(KH-th/h)	2,041	30.0%		
消費量(%)	30.0%			
ガス消費量(Nm3/h)	497			
ガスエンジン発電機				
発電効率(%)	36%			
発電量(KWhe/h,発電@全ガス量,KWe/y)	1,525	2,449	12,200	*1:発電可能量(KW-Max)
最大単独発電可能量(KWe/h)	1,714			
合成ガス必要熱量(KW-th)	4,236	62.3%		
重油熱量(Kcal/Kg)	10,500			
重油比重(一)	0.870			
余剰熱量(KW-th/h)	526	7.7%		
重油販売可能熱量(KW-th)	0	0.0%		
重油販売量(L/h,KL/h)(案1)	0		0	重油(Tar)残渣
水素販売量(Kg/h、ト _{>} /y)(案2)	60		480	:水素販売
水素濃度(Vol%)	45.0%			水素は別とPSA等設備必要
水素含有量(Nm3/h)	746			
: 回収率(%)	90%			仮定値(90%回収)
水素回収全熱量(KW-th/h)	525	7.7%	4,203	

Note

- ・(案1)必要発電量を越える分は、ガス化ではなく、一部油化し燃料油として販売(或いは燃料利用) (案2)ガス化して、水素分離(PSA)を行い利用(外部販売、或いは自社廃棄物トラックの水素自動車化) 両ケースを一部ずつ実現することも可能と思われる(採算計算は除外)
- ・発電可能量(*1)は、ほど理想的なケースです。同じ廃プラでもその種類、この他木質チップ等の混入等により、発電量は大幅に変わります(廃プラが含まれる原料のガス化でも、2.5~5.0MWe程度の変化が想定されます。熱分解油油、或いは水素の生産量も全て同様です
- ・残焼却炉・助燃料(*2,重油、或いは合成ガス)を、購入重油の代替燃料として使う
- ・上記のバランスであれば、この設備を使い廃プラ(8,000^ト)/年)をガス化すれば、理想的には、 売電1,220KWeに加えて、かつ水素燃料を年480^ト)の販売できる計算です。 加えて、年8,000^ト)の廃棄物処理費が引き続き得られます 尚、別途水素製造に特化した最新廃プラ触媒蒸気改質法水素装置なら、毎時1^ト)(日量24^ト)/年8,000^ト)の廃プラで、日量1.44^ト)(年480^ト)の水素が生産できる予定です。

(主にHDPE/LDPE/PPの廃プラなら水素最大化が可能)。廃プラ使用量を出来る限り少なくし (原料外部購入等)、水素生産量の最大化なら、こちらが原料・水素製造効率ベストな選択となります

- ・イメージ・アップ対策の水素製造を選択なら、多少はバイオマス(廃木、廃紙)を含める方がベター
- ・尚、ガス化炉で、合成ガスと副生油(軽重油)を、バランス良く回収する技術的な検討は必要です 合成ガスと副生(熱分解)油の需給バランスによっては、全ての需要を満たせない可能性もあり得ます
- ・下記設備価格は、概算の主に本体装置価格であり、土地整備、土建、建屋・工事費等を含みません

超概算ガス化発電・水素販売採算性

ガス化装置設備投資額(円)	1,200,000,000		前提(15年定額償却、残価10%)
: 水素分離設備費(円)	900,000,000		水素回収設備費(超概算)
収入・売上(円/年)			
廃プラ処理受託費(@3万円/トシ)	240,000,000	28.4%	単純焼却の売上(この項目のみ)
売電売上(@13円/KWh)	124,800,000	14.8%	ガス化による売上増(一部売電)
水素販売(@1000円/Kg)	479,502,017	56.8%	; (主に水素ガス販売)
合 計	844,302,017	100.0%	
支出・経費(円/年)			
人件費(3x4+3=15人@500万円)	-75,000,000		
設備償却(@15年)	-126,000,000		
保守費(設備費@3%)	-63,000,000		
廃プラ回収・前処理費(@5000円/トン)	-40,000,000		
設備管理費(@売上の5%)	-42,215,101		
合 計	-346,215,101		
素利益(収入—支出)(円/年)	498,086,916		
キャッシュ・フロー(円/年)	624,086,916		
投資回収(年)	3.36		

尚、お問い合わせは下記よりお願いします

<u>合同会社バイオ燃料:バイオマス・ガス化ソリュション提供のお問い合わせフォーム(biofuels.co.jp)</u>

以 上(2022/04/05)